

6. 腎臓透析部門の治療実績

腎臓内科 & 腎センター 山成俊夫

1. 腎生検

令和3年度は5例施行いたしました。内訳は、IgA腎症、半月体形成性糸球体腎炎、非薄基底膜病が各1例、急性尿細管間質性腎炎が2例でした。通常は尿蛋白・尿潜血陽性などの検尿異常を契機に施行することが多いのですが、昨年度は不明熱が主訴であったり（急性尿細管間質性腎炎）、急速な倦怠感増悪による救急搬送後に心肺停止となり、心肺蘇生後に腎生検を行ったりと（半月体形成性糸球体腎炎）、症例数は例年より少ないものの印象に残るものが複数ありました。また、ネフローゼ症候群の発症・増悪を来とし残念ながら死亡に至った症例では、病理解剖にて巣状糸球体硬化症様の所見を認めました。新型コロナワクチン接種後の発症ということもあり、示唆に富んだ症例と思われることから、症例報告としてまとめる予定としております。

2. 透析導入

令和3年度は40例の導入があり、38例が血液透析、2例が腹膜透析となっております。血液透析導入例の原疾患としては、糖尿病性腎症が18例と最多であり、腎硬化症（11例）、慢性腎炎（5例）、急速進行性糸球体腎炎（2例）、腹膜透析からの移行（1例）、その他（1例）が続いております。腹膜透析導入例の原疾患は、糖尿病性腎症・腎硬化症がそれぞれ1例ずつとなっております。

3. 腎代替療法・血液浄化療法

令和3年度末の時点で、当院では47名が通院にて血液透析を、13名が腹膜透析を継続しております。また、他院で維持透析を受けている患者の各種手術・心臓カテーテル検査・治療などの入院症例や内シャント狭窄・閉塞例なども対応しております。さらに、難治性ネフローゼ症候群に対するLDL吸着や、潰瘍性大腸炎に対するGCAP, さらに術後腎不全・肝不全に対してCHDFやビリルビン吸着、血漿交換など、他科からの種々の依頼にも応じております。

4. 腎移植

現在、献腎移植登録のため、血液透析患者2名、腹膜透析患者1名が岡山大学病院に定期受診しておられます。また、腎移植の希望があった場合は、岡山大学病院臓器移植医療センターと連携をとって対応しております。